

生まれた町、育った町、

これからも暮らす町。

この町にどんな人が

住んでいたのか。

この町でどんなことが

あったのか。

遠くのことより、

そんな身近なことが

大切に思えてきた。

じぶんの町が

おもしろい。

みんなの記憶をたずねて、

集めて、つないでいく。

そうすると、

原町本通りのものがたりが

できあがる。

世界でたったひとつの

ものがたり。それが「地元学」。

住んでることがもっと楽しくなる、

町との新しいつきあいが始まる。

この町にこんなことがあった。

# 原町

本通り

て蔵(質ぐら)がある。品物への協定価格あり。  
(熊谷吉助さんの話)



熊谷質店

## 高砂屋酒店



高砂屋酒店

み販売。

(志羽久法雄さんの話)

## 関村呉服店

創業百年ぐら、三代目。初代より座売りの形式をとって商売をすることを特

徴としている。

初代の頃は木綿布(しま模様)を織って塩釜・多賀城方面へ行商に行った。大変丈夫なので野良着として着用された。

二代目になり天井を洋風スタイルにし、ハイカラにした。当時の一流品ゲンゼ肌着の販売を最初に手がけたものだった。良い品を長く使用することをモットーに商売を続けた。

三代目、幼少の頃、売出し時の広告ほりなどの手伝いをしていた。昔からの反物、木綿布、綿などのほか、なかなか手に入らない

かっぼう着・風呂敷も豊富にそろえ、お客様を待っている。

(関村正一さんの話)

※座売り  
……座った



関村呉服店。建物は戦前のまま

## 八島製作所



いまも座売りで商売をしている

ままで、お客様とお茶飲み話をしながら、好みがうかがい商売をするこ

創業百年、二代目。農家が多かったの

で、農耕具一式をつくっていた。職人は四〜五人(住み込み)いたが、戦後職人も少なくなった。戦争中は、鉄は配給制だったが実績により区別された。店は繁盛していたが、二年前から休んでいる。  
(八島庄次郎さんの話)

## 飯田酒店

創業百三十五年、四代目。戦前は配給制だったので暮らしは安定していた。酒の他にタバコを売っていたのでタバコ屋と呼ばれていた。(飯田しくさんの話)

# 道標石

嘉永六年七月

北 藍かま、松島 三里十九丁

六里十五丁

東 八幡、八満ん、七はま

二里十六丁

四里廿四丁

南 長町、宮城野、いてふ道

一里

西 御城下 二十六丁

この年の四月に原町一丁目の庄子氏が、ここに同じ大きさ位の道標石を設けていて「右、可まふ」としてあるが、置き方を間違えたため旅人たちは迷ってし



庄司家に残る、もうひとつの道標石

まったので、現在の石に変更された。このわずかの務めであった石は、今もなお庄司家当主庄司省吾氏宅に保存してある。  
(庄司省吾さんの話)  
※ここはその昔「地蔵の辻」と呼ばれ、現在松原豆腐店の隣にある朝日地蔵がこの場所にあった。

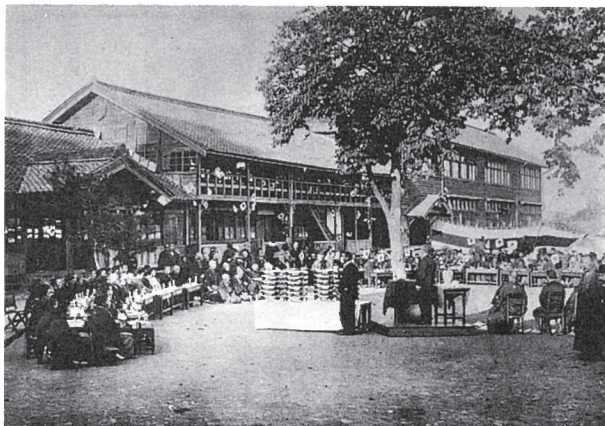
## 原町小学校

・大正：大正の初め頃に夜学校が併設されている。  
(葉山保さんの話)

・やはり大正の初め頃には子守学級があった。  
(大高とよさんの話)

・昭和初期：校舎は古く、後ろに電柱のようなささえがしてあった。日露戦争の戦利品かと思われる小銃があったし、校舎のひさしの下には大砲の玉（直径30cm）が二、三ヶ置いてあった。  
(菊地栄一さんの話)

・柿の木：昭和初期の入学当時から校庭の真ん中にあったが、渋柿なので一度も食べた事はない。現在は干し柿にして食べているそうである。



(若松繁雄さんの話)

大正4年の原町小学校

## 夜学校

原町小学校に夜学校が設けられ、小学校の先生が指導にあたっていて、昼間の補修のような物をしていたと思う。十二〜十七才ぐらいの地元の農家の男子が農閑期になると通っていた。

(葉山 保さんの話)